AGSurg
Annals of Gastroenterological Surgery
一般社団法人 日本消化器外科学会 The Japanese Society of Gastroenterological Surgery
The Japanese Society of Gastroenterological Surgery Official Journal

本学会の公式 SNS アカウント（X；旧 Twitter）を開設いたしました

日本語アカウント：日本消化器外科学会（@JSGS_official）

英語アカウント：Annals of Gastroenterological Surgery（@surgery81261）

～Associate Editor 推薦の掲載論文ご紹介～

日本消化器外科学会
会員各位

平素より“Annals of Gastroenterological Surgery”へお力添えいただき，誠にありがとうございます．
本メールマガジンでは，本誌の Associate Editor が会員の皆様にお薦めしたい論文を選定し，ご紹介しております．以下に今月の 3 編をご案内いたしますので，是非ご一読いただき，日々の研究や論文執筆にお役立てください．

2026 年 2 月のラインナップ

【UPPER】上部消化管領域

ORIGINAL ARTICLE

Impact of Intraoperative Fluid Volume on Complications After Minimally Invasive Esophagectomy: Analysis of 8782 Patients From the Japanese National Clinical Database

※PDF ダウンロードはこちら

推薦者コメント：馬場　祥史　先生

低侵襲食道切除術（MIE）における術中輸液管理は，ERAS プロトコールの中核をなす要素でありながら，その最適化に関する確かなエビデンスは限られていました．本研究は，National Clinical Database（NCD）に登録された 2018～2022 年の MIE 8782 例を対象に，術中輸液量と術後短期成績との関連を検討した大規模後ろ向き解析です．その結果，術中輸液量の増加は術後肺炎の発生リスクと有意に関連することが示されました．一方で，縫合不全，長期人工呼吸管理，手術関連死亡といった重篤な転帰との関連は認められませんでした．さらに平滑化スプライン解析により，輸液量の増加に伴い肺炎リスクが上昇する関係性が可視化されています．本研究は，MIE における術中輸液管理と肺合併症の関係を全国規模データで明らかにした初の報告であり，今後の周術期戦略を再考するうえで示唆に富む一編です．ぜひご一読ください．

【LOWER】下部消化管領域

ORIGINAL ARTICLE

Possible poor prognosis in younger-onset Crohn's disease-associated anorectal cancer: A subanalysis of the Nationwide Japanese study

※PDF ダウンロードはこちら

推薦者コメント：石原　聡一郎　先生

日本においてクローン病（CD）患者は増えており，現在患者数は 10 万人と推計されています．CD の長期経過例には消化管癌のリスクがあることが知られており，日本では直腸肛門管癌が多いのが特徴とされますが，頻度の高い散発性大腸癌に比べると患者数が少なく，臨床病理学的な部分についても十分明らかになっていないという現状があります．大腸癌研究会ではプロジェクト研究として多施設データベースを作成し，本論文では 300 を超える CD 関連癌の中で，約 2/3 を占める直腸肛門管癌症例に関して，特に若年発症例の臨床病理学的特徴に着目した解析を行なっています．全患者の年齢の中央値は 45 歳と，散発性大腸癌の約 65 歳に比べると 20 歳も若いのは CD 関連癌の特徴であり，近年，散発性大腸癌においても若年発症例の増加が問題となっており，

さまざまな研究報告がなされる中で，CD 関連直腸肛門管癌に関する若年発症例の解析は，他に類を見ない貴重な研究報告となっています．是非ご一読いただき，皆さまの診療と研究にお役立ていただきたいと思います．

【HBP】肝胆膵領域

ORIGINAL ARTICLE

Risk Evaluation of the NCD Risk Calculator for Open Pancreaticoduodenectomy in Elderly Patients: A Validation Study

※PDF ダウンロードはこちら

推薦者コメント：里井　壯平　先生

我が国では高齢化が進行し，高齢者に対する膵頭十二指腸切除術の適応判断は外科臨床における重要な課題です．本術式は侵襲性が高く，周術期合併症や死亡リスクに加え，術後の ADL 低下や退院先といった高齢者特有のアウトカムを含めた包括的な評価が求められます．本研究では，本邦の全国規模データベースである NCD に基づくリスクカリキュレーターを用い，65 歳以上の高齢者を対象として，術後不良経過の予測における術前リスク評価の有用性を検証しています．その結

果，「術後 ADL 低下予測率」および「Clavien-Dindo 分類Ⅳ以上の重篤合併症予測率」が独立した予測因子として示され，明確なカットオフ値の設定により，術前段階での患者層別化を可能としています．さらに，78 歳以上の集団においても妥当性が確認され，腸腰筋密度が関連因子として抽出された点は，手術適応判断を再考する上で重要な示唆を与えるものです．

About Ann Gastroenterol Surg

- Journal top
- Editorial Board
- Author Guidelines

◎本メールは同報メールシステムから配信しています．このままご返信いただいてもお答えできません．

◎お問い合わせは，会員専用ページ『MyWeb』またはこちらから．

◎メールマガジンの配信を停止されたい方はこちらをご確認ください．

※電子メールアドレスの変更手続きと本メールが入れ違いの際はご容赦ください．

発行: 一般社団法人日本消化器外科学会

住所: 〒108-0073 東京都港区三田三丁目 1 番 17 号 アクシオール三田 6 階

Copyright © 一般社団法人日本消化器外科学会 All rights reserved.